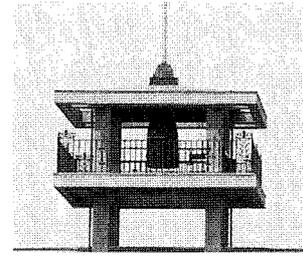


かのの 葛野の鐘

図書館報 第10号



京都光華女子大学図書館
2003.4発行
(<http://www.koka.ac.jp/toshokan/>)

(題字は元暦校本萬葉集より集字)



利用者にやさしい 図書館になります。

徳風館入口にスロープができました。
1階閲覧室の御手洗が、車椅子でも利用できる
ようになりました。



本の情報を楽しむ

図書館長 平 川 泰 司

私が手にするのを心待ちにしているもののひとつに、イギリスの書評誌 *The Good Book Guide* がある。文学・歴史・伝記など、様々な分野の良書が簡潔に紹介されていて、近刊の優れた文学作品や、専門書ではないが高度の知的内容をもった書物などの情報が得られるので、毎号首を長くして待っているのである。多色刷りの美しいこのパンフレットは、何度見ても楽しい。

オンライン書店アマゾン(イギリス、アメリカ、日本)の書物の推薦・紹介の記事もよく見る。CD、DVDのほうも気になるので、あまり時間を取り過ぎないように、見るのは夜9時以降と自制して、昼間の勉強の時間は確保するようにしているが、同じ記事を飽きもせず何度も見ている。

英米や日本の書店から、古書も含めて色々なカタログが送られてくるが、これらに目を通すのも楽しい。私の専門分野は16・17世紀の英文学だが、当然それはギリシャ・ローマの時代からその当時までのヨーロッパの文学・思想と密

接に関わっている。そのような文献は、仮に原語で読めたとしても時間が掛かり過ぎるので、英訳に目を光らせることになる。有名な作品のものは簡単に入手できるが、研究者以外あまり読む人もないようなものは、英訳があったとしても、それを手に入れるのはなかなか難しい。それで、カタログでそういった英訳を見つけたときは、もううれしくて、小躍りする。

本の広告、書評、参考文献表なども、目を皿のようにして見る。どんどん関心が広がってゆく。原始のヨーロッパ、印欧語の祖先、20世紀の芸術と思想、イスラエル、アラブ、アフリカ。もちろん日本も大事だ。大学の1年生のときに『正法眼蔵』を教わった。岩波文庫の3巻本を買ったが、ぜんぜん歯が立たなかった。長い間気になっていたが、数年前よさそうな現代語訳付きのが出るのを知って、たちまち食指が動いた。

どんどん本が増える。CDとDVDも。時間と置き場所が足りない。

(文学部 英語英米文学科)



図書館で会いましょう

人間関係学部 社会福祉学科 **小 國 英 夫**

正直に言って私は書くことも不得手だが、それ以上に読むことは苦手である。なぜ、本嫌いなのかと、時々考え込むことがある。研究者や教員という仕事柄、本を読むこと、それも普通以上に「速読・多読」することが当たり前の世界である。いやあー困った。

仲間といろいろ議論することはかなり好きな方であるが、「あの本は素晴らしかった」「この本はつまらなかった」という類の話になると、途端に話の輪に入り辛くなる。私の中に読書から得た蓄積があまりないからである。

そんな後は、次のような方法でいつも適当に自分を誤魔化してきた。

「自分は、ある事情で10歳のときから“老人ホーム”で暮らしていた。だから子供時代には“幕末生まれの

人”に随分遊んでもらった。そんなことから、50年以上にわたる老人ホームの内側の歴史を直に知っている。私の歳でこんな貴重な経験者はそうざらにはいない。こうした環境が何時しか私の中になりに鋭い“福祉的感覚”を育てた。これこそが私の唯一最強の“武器”である。これで戦えばいいのだ。」とまあ、こんな具合である。

要するに、“経験と勘”だけで生きてきた人間である。しかし、その“神通力”はもうとっくに通用しないことに実は気づいている。今、あらためて“64歳の手習い”でも始めようかと思っている。

宣言：皆さんと一緒に勉強します。図書館で会いましょう。

(老人福祉論・福祉経営論)



図書室の匂いと音

短期大学部 生活環境学科 生活デザイン専攻 **前 田 樹 男**

40年余り前、高校の図書室も大学の図書館も板貼りの床だった。靴音だけでなく古い床板がきしんで音がしたので、そおと歩かなければならなかった。床板に塗るオイルの匂いと書物の匂いが混じった独特の香りがした。大学の図書館の近くには大きな金木犀の木があり秋になると甘い香りが窓から入ってきた。当時はコピー機などもなく、読んだ本の気に入った文章や図などを大学ノートに写した。

今でも「西洋家具様式通論」を写したノートなどが残っているのを見るとなつかしい気がするが、中身はほとんど忘れてしまっている。「死に至る病」や「カフカとの対話」を読んだノートもあるが、どれだけ理解していたのか疑問である。この夏に南方熊楠の資料

館を見学する機会があり、留学していた時の原書を写したノートを見たが、その集中力には圧倒された。コピー機やワープロ、インターネットやCDが普及して書物のありがたさが軽くなった。図書館の匂いや音も変わった。蔵書を見るとその人がわかると言ったものだが、そんな考えも時代遅れとなったのかも知れない。

確かに重い本は重荷になる。自分の蔵書はその時々思い出がからんで、なかなか処分できない。いつかもう一度ゆっくり読み直そうと置いてあるが、そんな時間や気力も次第に減ってゆく。眼も弱ってきて、小さな字を読んでいると視野がぼやけるだけでなく、頭もぼやけてくる。本は若い時に読むのがいい。

(ユニバーサルデザイン論・美術)

‡ Topics ‡

第7回仏教図書館協会研修会を開催

平成14年11月14日(木)・15日(金)の2日間にわたり、本学と大谷大学が当番校を勤め研修会が開催されました。加盟大学22の中から20大学36名の参加者がありました。14日は本学の慈光館6階の太子堂を会場に講義と講演が行なわれました。

講義：「仏教関係資料の整理と運用」

特に各種(巴蔵漢)大蔵経へのアプローチ

講師 大谷大学総務課 渡邊顯信氏

講演：「仏教における心の諸相」

講師 本学図書館長 可藤豊文教授

また真宗文化研究所会議室を会場に、日文研究室の先生方の協力を得て貴重書の展示も行ないました。

15日は大谷大学を会場に講義と実習が行なわれました。

講義 「大谷大学所蔵金石・拓本について」

講師 大谷大学教授 大内文雄氏

実習 「古典籍の取り扱いと実際」

講師 大谷大学図書館司書 尾崎正治氏

その後大蔵会の展覧・施設見学があり昼食後青蓮院の見学で二日間にわたる研修会を無事終了しました。



私の薦めるこの一冊



『日本語』新版(上・下) 金田一春彦著(岩波新書2,3)

文学部 日本語日本文学科 ^{かみ} ^{たに} 神谷 かをる

日本語ブームである。日々、新聞・雑誌・週刊誌・単行本などの中に数多く、日本語に関するものが見出せる。それらの中には、信用するに足りないものや、独断的なものも珍しくないようだ。

だから、現代日本語についての解説書の古典ともいえるこの書をすすめたい。新版は上下二冊に分かれ、新しい情報も加味されている(しかしその後さらに日本語はめまぐるしく変化しているが)。世界の中で、日本語がいかなる位置を占めるか、から始まって、発音・語彙・表記法・文法などからみた日本語を、実にわかりやすく、時には笑わせつつ、実例多く説明されて、読んでいて退屈しない。

日本語は世界で六番目に多く話されている言語で、独・仏・伊語よりも話す人々が多いと知って驚く。歳時記というような本があるように、季節を表わす語彙に富むことや、「湯」という語が日本的な語であるとか、「間」・「きめ」・「こく」など、外国語に訳しにくい語彙の指摘など、日本と外国の文化の相違にも関連して面白い。

グローバルゼーションの中、かえって日本語を知ることには必要となっている。この本は、日本語の急所を押さえていて、教養書としてもおすすめしたい。

(国語学)
3階閲覧室



『生化学の夜明け』 丸山工作著(中公新書1125:中央公論社)

人間関係学部 人間健康学科 ^こ ^{たる} 小垂 ^{まこと} 眞

六炭素化合物のブドウ糖(C₆H₁₂O₆)が三炭素化合物のピルビン酸(C₃H₄O₃)にまで分解される過程は、ほとんどの生物に共通する糖質の代謝機構と定義され、解糖と呼ばれている。解糖経路の解明には、ほぼ20世紀の前半に相当する年月と数多くの科学者のたゆまぬ努力を要したが、現在ではどんな生化学の教科書にもわずか1ページ程度の反応経路図にまとめられている。この本には、正確な科学的叙述とともに教科書には決して記載されることがない、解糖の研究に苦闘した科学者達の、経路図に秘められた栄光と悲劇が、多くのエピソードとして語られている。

解糖経路は、その研究に大きく貢献したドイツのユダヤ系科学者二人の名に因み、エムデン(Emden)マイヤーホフ(Meyerhof)経路とも呼ばれるが、両者

は共同研究者ではなく、むしろライバルの関係にあり、自動車で一時間ほどの距離に生活していながら全く交流がなかった。皮肉にも、彼らに共通したのはともにナチスの迫害を受けたことであった。

一般にはとかく敬遠されがちな自然科学研究の背後にも、科学者という私たちと同じ血の通った人間の営みがあることを忘れないでほしい(ノーベル化学賞の田中耕一氏のことが記憶に新しい)。

一流の科学者によって著されたこの本は、学術的にも十分通用する生命科学への格好の導入書にもなっており、その分野の初学者(例えば、人間健康学科の学生諸姉)には是非読んで頂きたい一冊である。

(栄養学)
2階閲覧室

数字で見る図書館の動き

開館状況

年度	開館日	開館日数	入館者	貸出冊数	貸出人数
12	12.4.11~13.3.19	240	68,049	13,210	7,052
13	13.4.10~14.3.19	242	70,470	12,304	6,334
14	14.4.10~15.3.19	244	69,712	11,444	6,440

年間受入冊数(平成14年度)

	和書	洋書	消耗図書	計
購入	3,576	650	768	4,994
その他	3,170	644		3,814
計	6,746	1,294	768	8,808

蔵書冊数(平成15年3月現在)

	和書	洋書	計
図書	約147,700冊	約26,300冊	約174,000冊

相互利用件数

年度	複写依頼	複写受付	閲覧依頼	閲覧受付
12	132	34	70	31
13	129	56	42	26
14	181	515	48	31

本年度よりILL開始

レファレンス件数(カウンター受付)

年度	学内調査のみ	学外への依頼	学外からの依頼
12	167	179	44
13	131	90	87
14	157	106	100



「居場所」 図書館と私

文学部 日本文学科 昭和63年3月卒業 **滝澤悦子**



入学式の日、そこにはまだ、それはなかった。やっと大学生活に慣れた頃だったのだろうか。ドドドド、ガガガガ。工事が始まった。図書館が建つという。その音が先生の声を時折消しても、図書館だから...と、我慢して授業を受けていたような気がする。

図書館に初めて入ったときのことをかすかに覚えている。そこに、ツンとすました図書館特有の冷やかな空気はなかった。ふんわりとしたやわらかな空気が流れていたように思う。私が一番気に入ったのは、机だった。一人分に区切られた机と椅子の一人分の空間は、私の居場所になった。それまでは、授業が入っていない空き時間は、空いている教室か食堂で過ごしていた。旧図書館にも、なぜだか足が向かわなかった。

がらんとした教室も食堂も、私には居心地が良くなかった。落ち着けなかった。けれど、新しい図書館の一人分のスペースは、私の体にも心にもびったり合った。そこで、本を読んだり、調べ物をしたり、時には居眠りをして職員の方に叱られたこともあった。けれど、私にとっては、それほど安心のできる居場所だったのだ。本当に居心地のいい場所だった。

卒業式の日、私は振り返って校内を眺めた。入学式の日には何もなかった場所に、私の居場所になった図書館がどっしりと腰をおろしていた。もうずっとそこにいるような表情をして。あれからたくさんの時間が流れた。今この原稿を書きながら、久しぶりに私の居場所に帰りたい気持ちでいっぱいになっている。

✦ 寄贈図書一覧 (平成14年1月～12月受入) ✦ 寄贈者の50音順 (敬称略)

現旧教職員

- 有馬道子 文化の表層と深層 他
- 飯沼万里子 千円贅沢 他
- 内田順子 小島憲之「経国集詩注」索引
- 内田次信 ラテン語入門 他
- 岡本和子 スキナーの言語行動理論入門
- 小國英夫 日本型福祉社会 他
- 加藤実 東大寺のすべて 他
- 神谷かおる 古今和歌集用語の語彙的研究
- 冠野文 内田義彦セレクション1 他
- 木下稔子 生きる原点 他
- 木邊円慈 学校図書館はどうつくられ発展してきたか 他
- 児玉允 愛に始まる 他
- 小垂眞 運動によってたんぱく質必要量はどうか 他

- 小谷晋一郎 英語の談話文法
- 澤井律之 藤田哲也 森井正史 大学基礎講座
- 柴田周二 転換期のくらしと経済 他
- 真宗文化研究所 光華叢書1 「親鸞上人伝絵」講 他
- 組中達 人間関係を学ぶ心理学 他
- 高木英明 あの頃の子どもたち
- 高屋慶一郎 文体の問題点 他
- 太郎丸博 共同体的人格と所有 他
- 日本語日本文学科 大戦中に於ける台湾の短歌齊藤勇を中心として
- 久末源治 英文法シリーズ 文法の組織 他
- 平田陽子 マンション管理実務読本
- 福島栄寿 その人と思想 清沢満之
- 前田樹男 現代の絵画 Vol.8
- 松浦佳子 赤いランドセル 他

- 松田豊子 東條義門 他
- 百瀬正恒 つちのなかの京都2
- 山本登朗 西行伝承の世界 他
- 卒業生・学園関係者他
- 大野光子 ファラオの娘
- 岡本民夫 児童福祉の研究 他
- 楠香織 遺言 他
- 山田安造 中村久子氏の軸、色紙
- 山中ちあき ベラルーシの林檎 他

図書の詳細はOPACで調べることができます。1階光華コーナーにも現旧教職員の寄贈図書があります。この他に、学外の方からも多数の図書をご寄贈いただきました。改めて御礼申し上げます。

✦ Information ✦

【図書の配架が変わりました】

1階閲覧室の雑誌の位置がバリアフリー化工事により一部変わりました。2階閲覧室は書架が増え文庫本、京都コーナー、白書コーナーの位置が変わりました。

【新学科図書について】

人間関係学部福祉学科開設により、看護・介護・福祉の関係図書が増えました。

【図書館利用証】

専任教職員の方は、教職員証で図書館の利用ができません。

すので、利用登録をしてください。非常勤講師の方が図書館を利用する場合は、写真をご用意の上、お申し込みください。

✦ Schedule ✦

- 4月7日(月) 図書館ガイダンス
- 4月10日(木) 9時開館・返却期限日

編集後記 ご寄稿くださいました皆様には心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。

葛野の鐘 第10号 p3

年間受入図書冊数（平成14年度）の訂正（下線部）

	和図書	洋図書	消耗図書	合計
購入	<u>3,587</u>	650	768	<u>5,005</u>
その他	3,170	644	-	3,814
合計	<u>6,757</u>	1,294	768	<u>8,819</u>